

城まち

■ 背景・コンセプト

駅前再開発工事の際、城壁の一部が出土し市民は保存を訴えた。しかし、市は利便性を優先し、再開発は続けられた。結果として城壁は取り壊されてしまった。

現在の駅前は活気があるとは言えず、福山城が歴史的遺産であるにも関わらず福山城の存在が薄れている。

■ 福山市マスタープラン

1, 中四国の拠点性・求心力の向上

瀬戸内の十字路に位置しており、地理的な優位性を生かし、都市機能の充実を図る。

2, 良好な景観形成の推進

施設のデザイン向上、水辺や緑地などの自然景観や歴史的建造物や景観を生かした個性のある景観づくりの形成

3, 魅力ある商業空間の形成

福山駅周辺地区においては、買い物だけでなく、ふれあい、憩い楽しむ場としての魅力ある商業空間の形成

■ 敷地

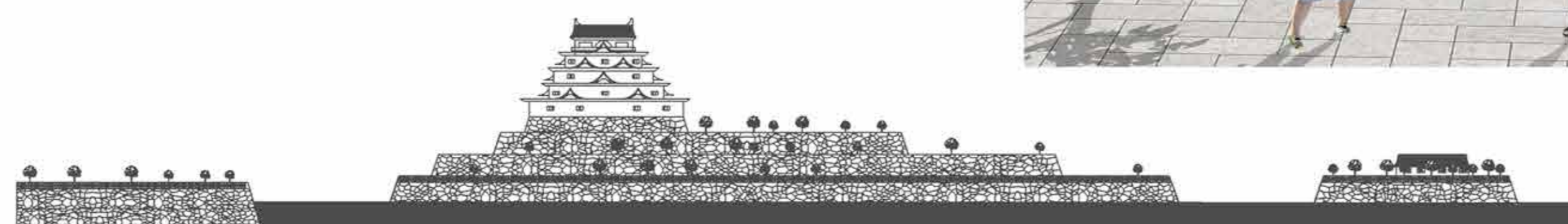
福山駅南側に計画する。かつてのCASPA跡地、タクシー乗り場バスターミナルを計画範囲とする。福山城の城郭は広く、現在の福山駅はもちろん、キャスパ跡地も含まれる。キャスパ跡地は当時の大手門に位置し、大手門は重要な出入り口であった。福山駅は内堀、三の丸に位置している。歴史的遺産として価値がある場所と考えた。



車、人を立体的に分離した。地下は車、地上は歩行者空間に計画。駅前広場は福山駅前の象徴になるような場所として存在する。

かつて広場計画地には堀があり、水が流れていた。当時の堀の形を復元し水を張る。敵からの防御のための堀を広場には憩いの場として潤いを与える。災害時にはその水をを活用したり、集まれる空間にする。

バスターミナル建設時、堀の定石が見つかった。市民の保存の声は虚しく、取り壊され現在の駅前になった。歴史を復活し、現代の生活になじむ計画を行う



城郭は層が重なって形成されている。層をずらしたり、サイズを変化させることで平面的、立体的に空間を作っている。

福山城は現在公園としても利用されている。南部も同様に、層には公園の要素を入れ、ビルを含めた駅前全体が自然広場になるように計画する。

